

総合計画における政策体系の変遷

資料 2

第1次総合計画 (S48～S58)

5点を骨子とする総合計画の性格

- 市街部と農村部の一体性を確保し、魅力ある郷土の建設をめざす(都市基盤)
- 快適な環境と社会福祉を増進し、生きがいのある社会の実現をめざす(保健・福祉)
- 伝統ある歴史文化を育み、生涯教育を通じて豊かな人間性の涵養をめざす(教育)
- 秩序ある産業を促進し、豊かな市民生活と郷土の反映をめざす(産業経済)
- 自然と環境の調和を重んじ、地域に適合した秩序ある開発をめざす(環境)

第2次総合計画 (S59～H7)

4つの柱の都市づくり

- 調和のとれた活力ある産業都市(産業経済)
- 人間性豊かな教育文化都市(教育)
- 心のふれあう福祉都市(保健・福祉)
- 緑の太陽が注ぐ高原リゾート都市(環境・都市基盤)

第3次総合計画 (H8～H19)

まちづくりの4つの柱

たくましく、未来に羽ばたく交流拠点づくり(都市基盤・産業経済)

歴史に学び、未来を切り拓く、創造力あふれるひとづくり(子育て・教育)

人と自然が共生する、快適な高原都市づくり(環境)

ふれあい、連携する、健康でやさしい地域社会づくり(保健・福祉)

計画推進のために(行政経営)



第4次総合計画 (H20～H29)

まちづくりの8つの政策

お互いに支え合い、その人らしく暮らせるまちづくり(保健・医療・福祉)

好きなまち・誇れるまち・未来につなぐ環境都市を目指す(環境)

生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む(子育て・教育)

住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり(産業経済)

快適で安らぎのある高原都市づくり(都市基盤)

住民自治のしくみづくり(行政経営)

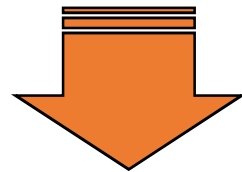
心豊かな多文化共生社会を創る(国際化)

ひとにやさしい情報文化都市づくり(情報化)



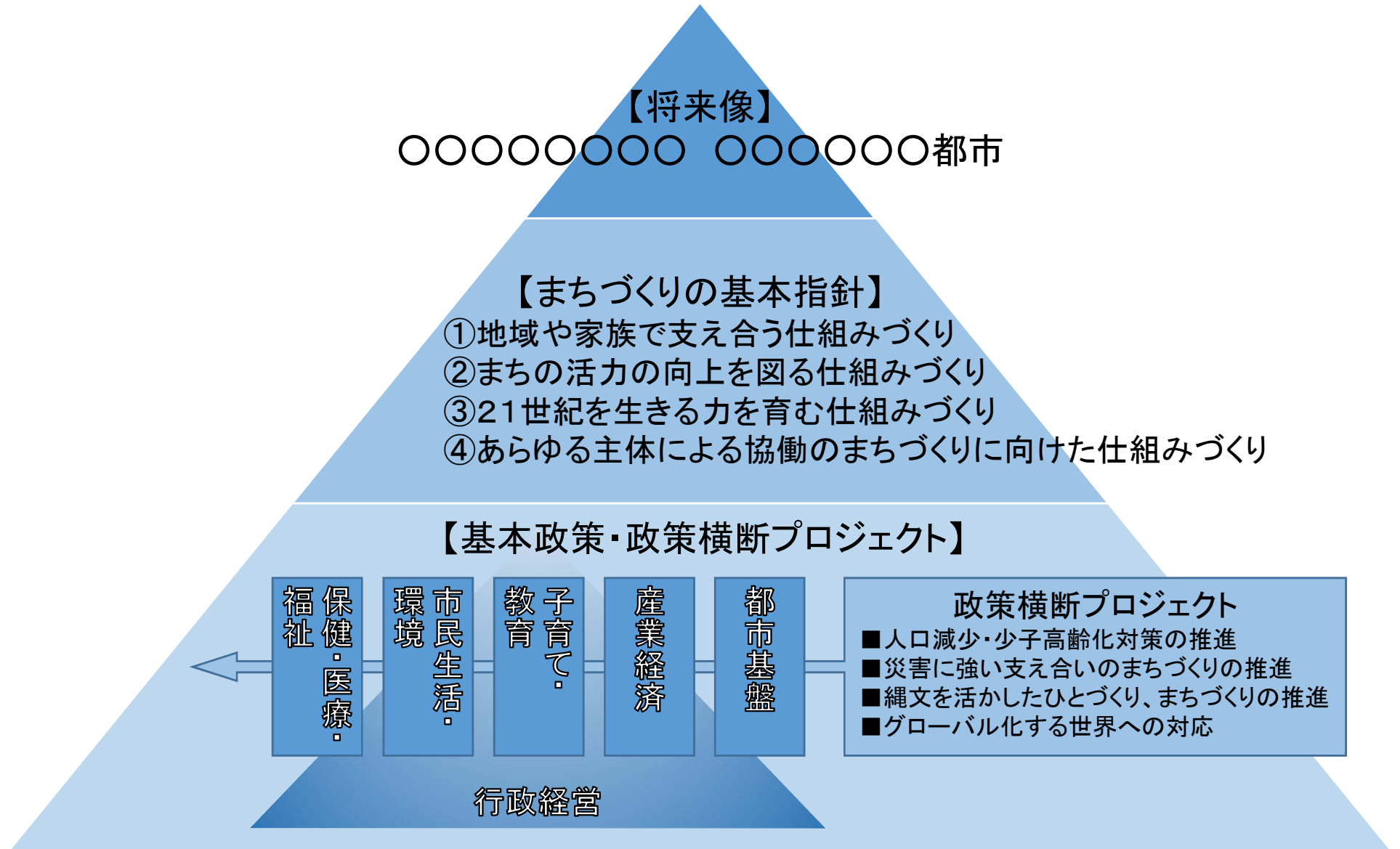
第5次総合計画は・・・

- 市民生活に直結する「保健・医療・福祉」、「環境」、「子育て・教育」、「産業経済」、「都市基盤」については、第1次から第4次まで、政策の柱として位置付けられている。
- 第4次総合計画から政策の柱に位置付けられた「国際化」と「情報化」は、他の政策の柱と比べて、政策間を横断するような施策・事務事業が多い。
- 「行政経営」については、他の政策の柱と横並びの性格ではなく、政策を実践するうえでの、下支え、後ろ盾となるような性格である。
- 市民プラン策定時と比べて、人口減少・少子高齢化対策や防災・減災に向けた取組、縄文プロジェクトなど、政策という枠組みを飛び越えて、全庁的な取組が必要となる課題が増えている。
- 市民アンケートやまちづくり懇談会のアンケート結果、「茅野市を取り巻く時代の流れとこれからのまちづくりの課題」を整理する中で、10年先の茅野市を考えたとき、重点的に取り組んでいく必要があるテーマ(指針)を明確に位置付ける必要がある。



こういったことを踏まえ・・・

第5次茅野市総合計画 体系（案）



まちづくりの基本指針

人口減少や少子高齢化の進展、それに伴う経済活動の停滞、まちの活力の低下などの諸課題に対し、それらを克服するための仕組みづくりに取り組んでいきます。

①地域や家族で支え合う仕組みづくり

高齢者の見守りや居場所づくり、生活支援や防災・減災に向けた取組、子育て支援や地域づくりなど、区や自治会が共助の取組を一層活発化することにより、住んでいる人が元気になり、地域が元気になることを目指します。

【具体的な取組】

公民館や空き家を利用した高齢者の居場所づくり、自主防災組織の活動支援、地域一体となった移住者の受け入れ・・・など

②まちの活力の向上を図る仕組みづくり

まちの元気を向上させるには、地域の産業経済活動が活発に行われている必要があります。茅野市のものづくり技術や縄文遺産、歴史、文化、自然環境といった地域の強みを活かしたまちづくりを目指します。

【具体的な取組】

公立化する諏訪東京理科大学を核としたまちづくり、観光を基軸としたまちづくり・・・など

③21世紀を生きる力を育む仕組みづくり

「まちづくり」は「ひとづくり」から始まります。これから先の茅野市を担う子どもたちが、心豊かでたくましく、やさしい、夢のある子どもに育つよう、「学力向上」と「生きる力の向上」に取り組めます。

【具体的な取組】

読書活動の推進、幼保小連携・小中一貫教育の推進、縄文科教育の推進、英語教育・ICT教育の推進・・・など

④あらゆる主体による協働のまちづくりに向けた仕組みづくり

上記①～③の仕組みづくりは、行政の力だけでは成し遂げられません。茅野市がこれからも元気なまちであり続けるために、市民のみなさんと市とが力を合わせて、まちの課題解決に向けた取組を進めていきます。

【具体的な取組】

ゆいわーく茅野を媒体として、あらゆる主体が、そして、様々な活動が融合する、パートナーシップのまちづくりの第3ステージともいえるべき「あらゆる主体による協働のまちづくり」の推進

政策横断プロジェクト

- ・それぞれの政策の枠組みにとどまらず、政策間を横断するような施策、事業を展開していきます。
- ・一つの取組で、多面的な効果を生み出します。
- ・プロジェクトには、それぞれ個別計画を位置付け、進行管理を行います。

■人口減少・少子高齢化対策の推進 【茅野市地域創生総合戦略】

- ・公立化する諏訪東京理科大学を核としたまちづくり
- ・観光を基軸としたまちづくり

■災害に強い支え合いのまちづくりの推進 【茅野市地域防災計画】

■縄文を活かしたひとづくり、まちづくりの推進 【縄文プロジェクト】

■グローバル化する世界への対応

- ・英語教育、多文化共生社会の構築 【(仮称)多文化共生・交流促進計画】
- ・情報技術を活かしたまちづくり 【(仮称)ICT活用戦略】